

花魁 選定理由書

大正3年に街から蜜柑畑の中へ移転した遊郭



貝塚は大阪湾に面し、中心市街地は紀州街道に沿い、1583年(天正11年)一向宗願泉寺(貝塚御坊)を中心に形成された環濠寺内町である。近世は「和泉もめん」「和泉ぐし」の生産取引が盛ん、廻船問屋による海運業が発達した。明治以降は紡績業が起り、1934年(明治9年)阪和線沿線に大日本紡績(現ユニチカ)貝塚工場が建設された。

栄えた町には遊郭ができる。明治期の遊郭は、街道に沿って普通の商家と混じって建ち並んでいたが、風俗取締上好ましくないということで、市街地と駅との間に広がっていた蜜柑畑の中に移転することとなった。大正3年にそれまでの場所を廃止し、新地の貸座敷免許者は32名、登録娼妓は六十名であった。南海本線貝塚駅で下車すると、紀州街道沿いの旧市街に向かってレトロな商店街が伸びている。その商店街の向って左側(南側)に遊郭跡が広がっている。一帯は丘の上にあって旧市街から見ると一段高いところだったようだ。中央にやや広い通りがあってそこに比較的大きな建物が並んでいる。街の成り立ちが大正初期なので建物はその時のものであろうが、後年大阪で開発された飛田新地などのそれと比較するとやや異なり、貝塚の方がゆったり造られている気がする。建物の中にはモダンなものも見られ、遊里探訪の教科書みたいな場所だった。

選定理由

外国人からすれば着物は「華やか」「色がきれい」などと着物に対しての魅力を感じており、最近では浅草など外国人観光客が多い観光地では着物の売上の多くが外国人だそうです。そして京都では花魁体験などでメイクや着物の体験をし、写真を撮ってSNSに上げるなども人気になってきております。

以上の点から、泉州地域にもゆかりがあり、外国人観光客の客寄せとして花魁を選定させていただきました。

※花魁は花魁体験の着付けなどをしてもらったスタッフにしてもらいます。

花魁 イメージ



花魁とはなにかの説明

遊女たちは、古い時代の、娼婦、売春婦といわれますが、遊女のほうが芸者よりも格が上です。つまり、娼婦、売春婦であったとしても、社会が彼女たちをどのように受け止めて来たのか全然違う時代背景があり、遊女たちは、自分自身の仕事に対して、かなり自信と自覚を持ち、現代で言えば、売れっ子アイドルのような存在だったということです。

掃除や洗濯などをし、しつけを受け、ふるいにかけてられながら、教養や芸事を仕込まれます。やがて、16・7歳にもなれば、客をとるようになります。その中から選ばれて、より上のクラスに上ってゆくわけです。容姿・賢さ・客あしらいの良さ・人柄・教養・芸事など、すべてがトップクラスの女性が「花魁」と呼ばれました

そして花魁という言葉は、18世紀の半ばあたりから使われるようになり、それ以前は、「太夫(たゆう)」や「傾城(けいせい)」と言われていました。花魁とは「教養」と「美貌」をしっかりと合わせ待った一握りの遊女なのです。